

平成 28 年度  
施策評価報告書

平成 28 年 11 月

泉大津市



## 目 次

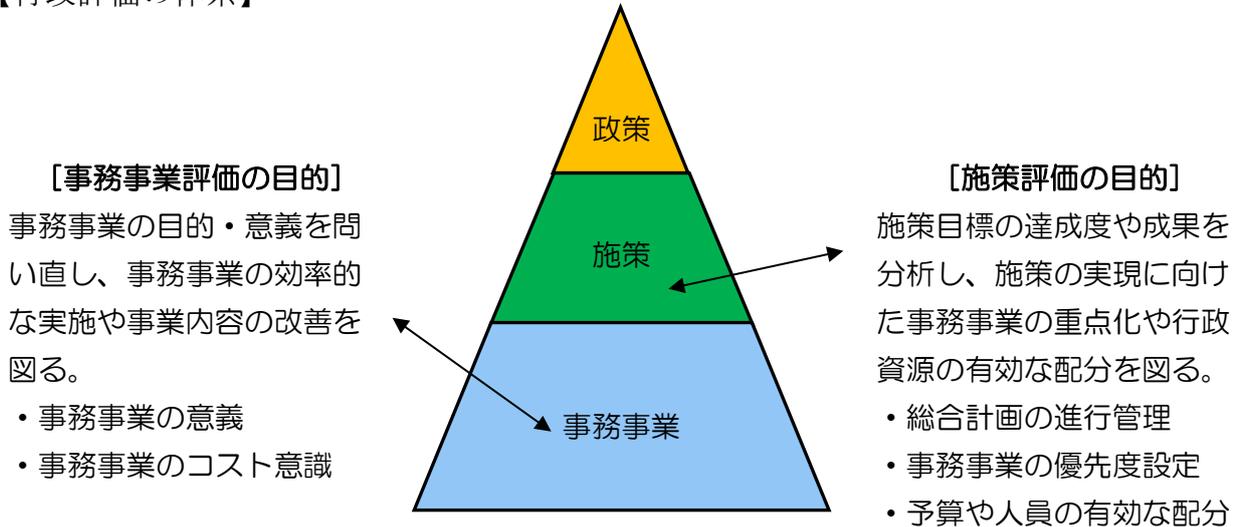
1. 行政評価の体系	1
2. 施策評価の目的	1
3. 施策評価の方法	1
4. 行財政改革推進本部施策評価部会での意見	
【政策1】力をあわせて市民の笑顔があふれるまちづくり	
【基本施策①】市民参画・協働	3
【基本施策②】地域コミュニティ	3
【基本施策③】男女共同参画	4
【基本施策④】人権・平和	4
【基本施策⑤】多文化共生	5
【政策2】学びあうひとづくり 彩りあるまちづくり	
【基本施策①】就学前・学校教育	6
【基本施策②】青少年育成	6
【基本施策③】生涯学習	7
【基本施策④】文化・芸術・スポーツ	7
【政策3】誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	
【基本施策①】子ども・子育て支援	9
【基本施策②】地域福祉	9
【基本施策③】高齢者福祉	10
【基本施策④】障がい福祉	10
【基本施策⑤】保健・医療	11
【政策4】安全で心やすらぐまちづくり	
【基本施策①】防災・消防	12
【基本施策②】防犯	12
【基本施策③】消費生活	13

【政策 5】コンパクトで居心地のよいまちづくり	
【基本施策①】 住環境	15
【基本施策②】 臨海部	15
【基本施策③】 環境保全	16
【基本施策④】 道路・交通	16
【基本施策⑤】 公園・緑地・河川	17
【基本施策⑥】 上下水道	17
【政策 6】誇れる・選ばれる・集えるまちづくり	
【基本施策①】 商工業	19
【基本施策②】 観光	19
【基本施策③】 農業・漁業	20
【基本施策④】 労働環境	20
【政策 7】健全な行財政と都市経営に基づく市民サービス	
【基本施策①】 行財政運営	22
【基本施策②】 市政の情報発信	22
【基本施策③】 公共施設	23
【基本施策④】 市民サービス	23
5. 総評	24

## 1. 行政評価の体系

泉大津市では、平成 23 年度より、事務事業評価を実施しているが、平成 27 年度から第 4 次泉大津市総合計画に基づく市政運営がスタートしたことから、事務事業の一段階上位に位置する施策評価を実施し、両者をもって、行政評価の仕組みを構築した。

### 【行政評価の体系】



## 2. 施策評価の目的

第 4 次泉大津市総合計画に定めている 31 の基本施策について、多角的な視点から目標達成度や成果を評価し、同計画の進捗管理を行う。あわせて、その結果を公表することで、市民に対する施策の実施状況に関する説明責任を履行するとともに、基本施策実現に向けた事務事業の重点化や行政資源の配分を図ることで、PDCA サイクルによる効率的な行政運営を推進することを目的としている。

## 3. 施策評価の方法

第 4 次泉大津市総合計画に定めている 31 の基本施策について、平成 27 年度の取組に対する評価を、以下の方法で行った。

- ① 各基本施策の担当部局長が、施策評価シートにて、自己評価を実施する。  
(施策評価シートについては別添参照)
- ② 担当部局長が行った自己評価について、行財政改革推進本部施策評価部会（副市長を部会長とし、部局長及び学識者で構成）において、1 施策ずつ、学識者や部局長からの質疑・意見をもとに、部会長が評価の取りまとめを行う。
- ③ 行財政改革推進本部施策評価部会での評価を踏まえ、「施策評価報告書（案）」を作成し、これを行財政改革推進本部（市長を本部長とし、副市長及び教育長、部局長で構成）に報告する。
- ④ 「施策評価報告書」を公表する。

【第4次泉大津市総合計画に定める7つの政策と31の基本施策】

政策	基本施策	政策	基本施策
力を合わせて 市民の笑顔が あふれる まちづくり	市民参画・協働	コンパクトで 居心地のよい まちづくり	住環境
	地域コミュニティ		臨海部
	男女共同参画		環境保全
	人権・平和		道路・交通
	多文化共生		公園・緑地・河川
			上下水道
政策	基本施策	政策	基本施策
学びあう ひとづくり 彩りある まちづくり	就学前・学校教育	誇れる・ 選ばれる・ 集える まちづくり	商工業
	青少年育成		観光
	生涯学習		農業・漁業
	文化・芸術・スポーツ		労働環境
政策	基本施策	政策	基本施策
誰もが すこやかに いきいきと 暮らせる まちづくり	子ども・子育て支援	健全な行財政と 都市経営に 基づく 市民サービス	行財政運営
	地域福祉		市政の情報発信
	高齢者福祉		公共施設
	障がい福祉		市民サービス
	保健・医療		
政策	基本施策		
安全で 心やすらぐ まちづくり	防災・消防		
	防犯		
	消費生活		

## 4. 行財政改革推進本部施策評価部会での意見

### 【政策1】力をあわせて市民の笑顔があふれるまちづくり

#### 【基本施策①】市民参画・協働

(施策評価シートはP 1 参照)

##### ○学識者等からの意見

- ・成果指標の「市民活動団体として登録している団体数」については、平成30年度時点の目標を50団体としているが、平成27年度時点ですでに51団体と目標を達成していることから、今後の考え方について整理しておくべきである。
- ・当該施策については、どこの自治体も苦勞している。能動的な市民、そうでない市民、工夫次第で能動的な市民となる中間層の市民がいるなかで、中間層の市民をどのように能動的な市民に変えるかが課題であることから、その対応策について検討するべきである。

##### ○部会長の講評

- ・「がんばる市民公益活動補助金」については、当該施策の中で重要な事業の1つであることから、その成果や課題について整理する必要がある。
- ・市民活動支援センターの開設後、登録団体が飛躍的に伸び、平成31年度の目標を既に達成した。総合計画見直しの際は、目標値の見直しが必要である。
- ・登録団体の増加や、施策の成果としてあげている同センターの活動内容が、平成29年度実施予定の市民満足度調査の数値に反映されるかを注視したい。
- ・総体的にみて、目標達成度合「C 概ね順調」という評価は妥当と考える。

#### 【基本施策②】地域コミュニティ

(施策評価シートはP 3 参照)

##### ○学識者等からの意見

- ・地域コミュニティは、非常に重要な課題である。
- ・自治会加入率の向上については、自治会の存在意義や中身を踏まえ、低下傾向についての基本認識や評価を議論する必要がある。
- ・自治会に代わる組織の検討も必要ではないか。

##### ○部会長の講評

- ・単位自治会を一定地域ごとにまとめる組織としては、現在、新たに取り組んでいる、小学校区単位のまちづくり協議会が考えられるが、これをどのように位置づけ、進めていくのか明確にする必要がある。また、他の自治体で見られるように、同協議会に活動費を配分し、その傘下団体に再配分する方法をとるのかどうかについても、検討する必要がある。
- ・自治会への加入促進策として、宅建業者と提携して建築主に加入を促す取り組みを行っているが、実効性を検証、確認し、効果が薄いようであれば、他の促進策に取り組む必要がある。
- ・地域コミュニティの活性化については、今後、リーダー育成等の成果について検証が必要である。
- ・以上のことから、目標達成度合「D 改善が必要」という評価は妥当と考える。

---

### 【基本施策③】 男女共同参画

(施策評価シートはP 5 参照)

---

#### ○学識者等からの意見

- ・女性再就職セミナーについては、履歴書の書き方や面接に関する内容だけではなく、スキルアップにつながる内容で実施するべきではないか。
- ・人権相談（女性相談）に関して、フェミニストカウンセラーの派遣を受けて実施しているが、市民ニーズを把握して実施回数等を検討するべきではないか。

---

#### ○部会長の講評

- ・フェミニストカウンセラーはDV対応の相談にも応じており、本市ではDV対策に力を入れているので、市民ニーズの把握を行うべきである。
- ・就職セミナーについては、ハローワークが市の担当部署と同じ建物に移転してきたことでもあり、今後、ハローワークと一層緊密な関係を持って進める必要がある。
- ・総体的にみて、目標達成度合「C 概ね順調」という評価は妥当と考える。

---

### 【基本施策④】 人権・平和

(施策評価シートはP 7 参照)

---

#### ○学識者等からの意見

- ・人権に関する取組については、継続が重要であることから、継続的に実施していく仕掛けを検討する必要がある。

---

### ○部会長の講評

- ・人権に関する取組については、継続的に実施することが重要である。
- ・ピースディスカッションについては、内容の工夫や回数を増やしたことで、体験などを語る側に多様な市民が参加するようになり、語る側の人やりがいを持ってくれるようになったのは大きな成果である。
- ・総体的にみて、目標達成度合「B順調」という評価は妥当と考える。

---

## 【基本施策⑤】多文化共生

(施策評価シートはP 9 参照)

---

### ○学識者等からの意見

- ・グレートジョーンズ市と友好関係を持っていることは、泉大津市にとって財産であるため、もっと交流を深化させるべきである。
- ・友好都市との交流については、どこの自治体でも活発に行われていないのが実情であるが、グレートジョーンズ市とは市民レベルでの交流を行った方が良い。
- ・また、グレートジョーンズ市のホームページには、多文化共生に関する情報が多く掲載されていることから、この分野の政策面での交流も行ってほしい。
- ・多文化共生を政策課題にしている自治体は多いが、グローバル、人種、民族を乗り越えるといった国際的な問題設定が多い。男性と女性、高齢者と若年者など、国境を越えて共通するものもあるので、国際化以外の視点も視野に入れておく必要がある。
- ・海外視察で得た多文化共生の知見を市民に還元する方策について検討するべきである。

---

### ○部会長の講評

- ・海外視察の成果を市民に伝えるのは難しく、課題である。学生同士の交流がきっかけになると考えるが、これが発展して、行政同士の関係性に結びつくように取り組むべきである。
- ・「臨海部」の基本施策において実施している港湾トップセールス事業において、経済面・産業面で、アセアンとの交流も深まってきている。
- ・成果指標の「国際交流協会会員」については、平成 31 年度時点の目標値をすでに達成していることから、目標設定の見直しが必要である。
- ・総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

【基本施策①】就学前・学校教育

(施策評価シートはP11 参照)

○学識者等からの意見

- ・保育士や幼稚園教諭への研修については、必要な人が受講できているのか把握する必要がある。
- ・学校教育におけるICTの活用については、それを有効に活用できる場合とそうでない場合があるので、きちんと使い分ける必要がある。
- ・成果指標として「自分によいところがあると思っている生徒の割合」を設定しているが、日本人は外国人に比べて「自己肯定感」を持つ人の割合が低い傾向にある。日本の風土の影響と考えられることから、根が深い課題である。
- ・事業名からその事業の内容を想像するのが難しいものがある。施策を適切に評価するうえでも、体系的に、わかりやすく整理したほうが良いと考える。

○部会長の講評

- ・ICTの推進は重要だが、同時にアナログ的な手法も大切である。小・中学校にタブレットを導入したが、それを活用した教育とアナログ的な教育との関係性をよく検討する必要がある。
- ・教育相談については、相談内容に応じて、保健センターと連携できるものは連携するべきである。
- ・事務事業の名称については、市民に分かりやすいものにした方が良い。
- ・子どもサポートセンターによる問題行動を抱える子どもへの支援については、今後、さらに力を入れていく必要がある。
- ・総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

【基本施策②】青少年育成

(施策評価シートはP13 参照)

○学識者等からの意見

- ・成果指標の「将来の夢や目標を持っている青少年の割合」については、調査の実施時期によって数値が大きく変わる可能性がある点に留意したほうがよい。進学直前の学年は高くなる可能性がある。

○部会長の講評

- ・フカキ夢・ひとづくり賞事業については、賞の認知度向上のための取組が必要である。
- ・成人式については、新成人による自主運営にしたことで良くなってきている。今後、市民会館が閉館になることから、成人式の開催場所について検討する必要がある。
- ・総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

---

## 【基本施策③】生涯学習

(施策評価シートはP15 参照)

---

### ○学識者等からの意見

- ・生涯学習については、学校教育を終えた現役世代もその対象と文部科学省が定義していることから、定年退職した人のみが学ぶことではない点に留意して事業展開を図るべきである。

---

### ○部会長の講評

- ・通勤帰りに利用しやすいように、図書館の開館時間の延長について検討する必要があるのではないか。
- ・シニアラーニングアップ事業については、補助金額の減額等の改善は図られているが、利用者が固定化しているため、より多くの人に利用していただくために事業のPR方法を検討するべきである。
- ・本市では、公民館は民間のカルチャーセンターではないとの認識のもとで事業を進めている点に留意し、生涯学習関連施設のあり方について検討するべきである。
- ・総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

---

## 【基本施策④】文化・芸術・スポーツ

(施策評価シートはP17 参照)

---

### ○学識者等からの意見

- ・古文書の整理について、ボランティアやシニア層の人を活用してはどうか。
- ・大規模改修をしている総合体育館について、指定管理者制度の導入を検討してはどうか。

- ・地域主体と言われているが、様々な活動に参加している市民は、あまり変わらない状況にあることから、部局ごとに進めるのではなく、部局を越えて連携することが重要である。

---

#### ○部会長の講評

- ・健康寿命の観点から当該施策は重要との考えのもと、体育館の大規模改修を行っている。これにより利用者が増加すると考えている。
- ・織編館については、テクスピア大阪の1階に移転したことにより利用者が増加している。
- ・文化フォーラムについては、市民の参加が増加している。
- ・これらを踏まえ、全体としては順調である。
- ・ただし、文化祭については、活動団体やその関係者だけで実施しているように感じるので、市民全体に広げるために改善が必要である。
- ・総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

## 【政策3】誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり

### 【基本施策①】子ども・子育て支援

(施策評価シートはP19 参照)

#### ○学識者等からの意見

- ・成果指標の「合計特殊出生率」については、現状値と目標値が同数になっており現状維持をめざしたものと推測されるが、実績値はそれを下回っている。
- ・留守家庭児童会に関する事業については、他市の動向に留意しながら今後の展開を図っていくべきである。

#### ○部会長の講評

- ・ファミリーサポートセンターは良い制度であるが、更なる周知など会員数を増やすための取組が必要である。
- ・健康21推進事業は特長的な事業なので、フッ化物洗口の実施年齢の拡大を検討してはどうか。
- ・留守家庭児童会に関する事業については、ファミリーサポートセンター事業との関係を整理する必要がある。
- ・総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

### 【基本施策②】地域福祉

(施策評価シートはP21 参照)

#### ○学識者等からの意見

- ・独居高齢者等見守り事業について、その名称からは高齢者福祉施策のような印象を受ける。

#### ○部会長の講評

- ・18事業あるが、個々に順調だと感じる。
- ・市民生活応援窓口については、市が直営で実施することで、ワンストップで対応できることから、手厚い対応となっていると思うが、生活困難者へのアウトリーチの充実については今後の課題である。
- ・ボランティアに関する事業として、地域福祉における地域ボランティア活動事業と市民参画・協働における市民活動支援センター運営事業の2つがあるが、関係団体の登録や活動がどちらの事業にあたるのか、両事業の関係性について整理できるのかなどを検討する必要があるのではないかと考える。

- ・総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

---

## 【基本施策③】 高齢者福祉

(施策評価シートはP23 参照)

---

### ○学識者等からの意見

- ・2025年問題により高齢者福祉の業務は非常に大変になる。この問題への対応・かじ取りが今後の自治体間の格差につながると考える。
- ・「健康寿命」がキーワードになると考えており、この「健康寿命」を伸ばすことに、どれだけ注力するかによって、自治体のあり方が決まってくるのではないかと。

---

### ○部会長の講評

- ・他市との比較は困難であるが、本市では配食サービス等の見守りなどを職員が実施していることから、高齢者福祉の取組は手厚いと考えている。
- ・健康福祉部と病院等との部局間連携もできている。
- ・認知症サポーターの登録件数についても、平成31年度時点の目標値をすでに達成している。
- ・以上のことから、目標達成度合「A 目標以上」という評価は妥当と考える。

---

## 【基本施策④】 障がい福祉

(施策評価シートはP25 参照)

---

### ○学識者等からの意見

- ・身体障がい者福祉大会等実施事業については、地域の民生委員の協力や市職員の参加もあり、障がい者と健常者の多文化共生にもつながると考える。
- ・福祉施設の工賃については、授産商品が売れなければ上がらないため、事業者への働きかけを行うとともに、商品を使用してもらい、購入してもらいように働きかけるのも重要である。
- ・福祉タクシーの利用券については、部分的に配布枚数を減らしてきているが、対象から外れる人からの苦情がある。しかし、本来は一律配付ではなく、個別の支援状態に合わせた枚数を配付することが望ましいと考える。

---

### ○部会長の講評

- ・成果指標の「福祉施設の工賃」については、施策目標を達成できるよう、福祉大会などの多くの人が集まる場所でPRを実施すべきである。
- ・総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

---

## 【基本施策⑤】保健・医療

(施策評価シートはP27 参照)

---

### ○学識者等からの意見

- ・がん対策が大きな課題である。市立病院との連携し、がん検診の受診者を増やすため、キャンペーン等に一層力を入れるべきである。
- ・食育推進事業については、ライフステージごとの実施が望ましい。特に中高年の一人暮らしの男性に対する食育が大切だと考える。
- ・在宅訪問歯科検診については、口腔ケアだけではなく、嚥下や咀嚼までできるようにする必要があると考える。予防は大事なことである。
- ・がん検診については、40歳から60歳の受診率が低くなっている。子育てが落ち着いた人や、就労が常勤でない人に対する受診の働きかけが必要ではないか。

---

### ○部会長の講評

- ・健康寿命を延ばすため健康マイレージ事業を開始したので、その効果に期待している。
- ・市立病院については、「市立病院 新改革プラン」に沿って取り組みを確実に進めてほしい。市立病院には頑張ってもらいたい。
- ・総体的にみて、目標達成度合「D 改善が必要」という評価は妥当と考える。

## 【施策4】安全で心やすらぐまちづくり

### 【基本施策①】防災・消防

(施策評価シートはP29 参照)

#### ○学識者等からの意見

- ・セーフコミュニティ活動の推進は、泉大津市の施策の目玉である。
- ・セーフコミュニティ国際認証取得後の活動については、自治体により差があると思う。セーフコミュニティは市民主体の活動であるが、市としてももう少しサポートを続けてほしい。
- ・防災訓練について、学齢期の子どもと保護者世代の参加が少ないと感じることから、そういった世代に対する働きかけをしてはどうか。
- ・救急安心センターについて、認知度があまり向上していないようであることから、対策が必要ではないか。

#### ○部会長の講評

- ・セーフコミュニティ活動については、国際認証取得後、さらに精力的に実施すべきである。
- ・セーフコミュニティ活動における分野別対策委員会で発案され完成した取組については、行政が引き取って実施することとし、新たな取組を同委員会から発案してもらうようにすべきである。
- ・リーダーとなる人材の育成については、セーフコミュニティ活動を通じて推進できたと感じている。認証取得の審査会では市民が主体的に発言・発表していただいております。こうしたことはこれまでなかったと思う。5年後の再認証取得に向けた活動を進めてほしい。
- ・21市町で締結している災害時相互応援協定は、形式的なものではなく、各市町が顔の見える関係性を築いており、実態の伴った防災協定であることから、基本施策を最も代表する取組として挙げてほしい。
- ・防災訓練については、多くの市民に参加していただけるよう工夫されているが、もう1歩、市民の興味を引くアイデアを検討してほしい。
- ・総体的にみて、目標達成度合「C 概ね順調」という評価は妥当と考える。

### 【基本施策②】防犯

(施策評価シートはP31 参照)

---

### ○学識者等からの意見

- ・成果指標の設定が難しい施策である。
- ・防犯対策については、エビデンス（確実な根拠）に基づいて取り組むことが必要である。犯罪を起こしにくい場所を多く作り、その場所を教育現場で教えるといった事業展開が重要である。
- ・防災訓練は多くの自治体で実施しているが、防犯訓練はあまり実施されていないと感じる。子どもから防犯意識を高めることが重要である。
- ・犯罪は効果的な対策をとれば確実に防げることから、防犯カメラも防犯灯も効果的な場所に設置することが重要である。
- ・防犯灯については、設置することで近隣の住民に光害等の悪影響を及ぼさないか考慮する必要がある。

---

### ○部会長の講評

- ・防犯カメラの設置については、警察と密接に連携して実施している。プライバシーの保護にも配慮している。
- ・当該施策については、防犯灯や防犯カメラの設置、青色防犯パトロールの実施とあわせて、子どもの非行をなくし、子どもを守るために立ち上げた「泉大津市子どもサポートセンター」との連携が重要と考えることから、連携に向けた調整をするべきである。
- ・総体的にみて、目標達成度合「C 概ね順調」という評価は妥当と考える。

---

## 【基本施策③】消費生活

(施策評価シートはP33 参照)

---

### ○学識者等からの意見

- ・消費生活相談窓口と市民生活応援窓口が市役所1階のロビーで隣接していることから、連携が図れていると思う。
- ・高齢者については、自分が詐欺にあっているという認識を持っていない場合もあることから、市の窓口に来てもらうまでの対処が難しく課題が多い。
- ・消費者リーダー育成講座の受講者が、受講した内容を市民に還元する仕組みを作る必要があるのではないか。

---

### ○部会長の講評

- ・泉大津消費者問題研究会が実施する視察に対して補助しているが、視察で得た知見が広く市民に還元されているのか疑問である。還元する方策を検討する必要がある。

- ・消費者問題について、被害情報や手口などの情報発信が少ない。手口が巧妙になってきていることから、広報紙以外の情報発信方法を検討する必要がある。
- ・総体的にみて、目標達成度合「C 概ね順調」という評価は妥当と考える。

【基本施策①】住環境

(施策評価シートはP35 参照)

○学識者等からの意見

- ・住環境は深刻なテーマだと思う。実際に空き家問題に関わっているが、空き家の実態把握は非常に困難である。
- ・空き家の調査には時間と労力がかかることから、新たな予算措置が必要になるのではないか。
- ・民間住宅の耐震化については、市の補助制度があるものの、なかなか進んでいないと考えることから、対策が必要ではないか。
- ・市営住宅については、市がストックを持つことが適切かどうか判断する必要がある。維持管理費や将来的な更新整備費用を考慮すると、ストックを持たないという選択肢もあるのではないか。今後、民間住宅の空き家のストックが増えてくることから、国全体として公共住宅施策をそちらへシフトする時期が到来しつつある。

○部会長の講評

- ・「景観人の集い」の活動で、墓地等の壁面が大変きれいになっており、とても感謝している。その活動を一層支援するための財源を確保するため、ふるさと納税のメニューに追加するなど、その方法について検討するべきである。
- ・まちづくり事務所については、一部を除いて一定役割を終えていることから、今後のあり方について検討するべきである。
- ・住居表示については、住居表示が未実施の地域において、郵便物が配達されないといった声も聞いている。住民の合意形成が困難であることは理解するが、粘り強いアプローチにより取組を風化させないようにすることが重要である。
- ・総体的にみて、目標達成度合「C 概ね順調」という評価は妥当と考える。

【基本施策②】臨海部

(施策評価シートはP37 参照)

○学識者等からの意見

- ・企業誘致数が増えたにもかかわらず、市民雇用者数が減っているため、その原因について調べる必要があるのではないか。

- ・港湾トップセールスの実施先としてターゲットにしているオーストラリアは、日本と交通ルールが似ており、日本車の中古車のニーズが高いことから、中古車輸出に関するトップセールスとしては適当であると考える。

---

#### ○部会長の講評

- ・将来、市内で収益が上がるのは、臨海部の企業だと考える。臨海部に本社を置いていただけることで税収も上がる。
- ・ベトナムやミャンマーといった社会主義国では、民間企業が訪問しても政府首脳は会ってくれないので、市が訪問することは効果的である。訪問団に参加した企業による商取引も間もなく始まることから、港湾トップセールスの成果が上がっていると考える。
- ・今後、より広い関係性をつくるよう期待する。
- ・総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

---

### 【基本施策③】 環境保全

(施策評価シートはP39 参照)

---

#### ○学識者等からの意見

- ・家庭ごみ減量の対策として、容器包装プラスチック分別の推進等が、可燃ごみ減量に有効であり、一定の効果が認められることが理解できた。

---

#### ○部会長の講評

- ・第4次泉大津市総合計画策定時の市民アンケートで第3次泉大津市総合計画の評価として、満足度と重要度の調査を実施したが、第3次泉大津市総合計画における環境保全の施策は、全施策における満足度の平均値より低く、かつ、重要度の平均値より高いという結果であった。このように、環境保全は、市民生活に直結した施策であることから、市民の関心が高い施策である。今後とも、事業系ごみの分別の促進などの課題を一つずつ解決し、進めていってほしい。
- ・総体的にみて、目標達成度合「C 概ね順調」という評価は妥当と考える。

---

### 【基本施策④】 道路・交通

(施策評価シートはP41 参照)

---

#### ○学識者等からの意見

- ・泉大津市はコンパクトで移動の際には自転車利用が多いことから、その対策が重要であると考える。

- ・道路のバリアフリー化に取り組んでいるようであるが、障がい者差別禁止法ができたことから、公共施設や道路のバリアフリー化だけではなく民間企業によるバリアフリー化の取組促進に向けた広報も充実していただきたい。

---

#### ○部会長の講評

- ・泉大津駅の放置自転車対策については、困難な事業だったが、一定対策を進められたものと思う。
- ・道路のバリアフリー化については、予定よりも早く前倒しで進捗していることから、この調子で進めてほしい。
- ・総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

---

### 【基本施策⑤】 公園・緑地・河川

(施策評価シートはP43 参照)

---

#### ○学識者等からの意見

- ・防犯の観点からの公園整備も重要だと考える。
- ・公園の遊具については、健康増進のための遊具の設置についても考慮する必要があると考える。

---

#### ○部会長の講評

- ・公園については、まち・ひと・しごと総合戦略策定時の市民アンケートにおいて、ニーズの高い分野であることがわかったため、遊具の更新を進めているところである。
- ・子どもが安全に遊べる公園は、定住促進のためにも必要である。
- ・市民ニーズが高く、成果がわかりやすい分野の施策なので、しっかりと進める必要がある。
- ・総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

---

### 【基本施策⑥】 上下水道

(施策評価シートはP45 参照)

---

#### ○学識者等からの意見

- ・成果指標として「水道の現状に満足している市民の割合」を挙げているが、市民が満足していない部分についてきちんと把握する必要があるのではないか。

---

#### ○部会長の講評

- ・水道管の耐震化については、耐震化事業費の増嵩が水道料金に反映されることとなるため、進め具合が難しい問題である。
- ・当該施策は、市民が生活するうえで必要不可欠な事業であることから、水道管の更新については、水道料金とのバランスを考えて進める必要がある。
- ・総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

【基本施策①】商工業

(施策評価シートはP47参照)

○学識者等からの意見

- ・創業支援や後継者育成に関する具体的な青写真が必要ではないか。
- ・マスコットキャラクター運営事業に係る経費が多いのではないか。

○部会長の講評

- ・マスコットキャラクター運営事業については、制作したグッズの販売収益がある。
- ・商工業のプロモーション活動については、通常は場所代等の費用がかかるところ、費用をかけずに東京スカイツリー等、様々な人が多く集まる場所で実施することができており高く評価できる。引き続き期待している。
- ・総体的にみて、目標達成度合「C 概ね順調」という評価は妥当と考える。

【基本施策②】観光

(施策評価シートはP49参照)

○学識者等からの意見

- ・当該施策について、これまであらゆる手を尽くしたようであるが、SNSの活用も有効だと考える。例えば、マスコットキャラクターのおづみんの情報を、SNSを使って海外に流すのも1つの戦略である。
- ・おづみんは市の貴重な財産。観光客を呼ぶ起爆剤になると考えられるため、YouTubeで動画を配信するなど方策を検討してはどうか。
- ・フェイスブック等に池上曾根遺跡の情報がアップされにくい。積極的な情報発信について検討してほしい。

○部会長の講評

- ・SNSを活用した情報発信については、一度試みってみるべきである。
- ・観光客を呼び込むというのは、本市では現実的には厳しいと思うが、市内にホテルが2軒あるのは強みである。
- ・フェニックスコンサートで約10万人が本市を訪れるが、訪問者の実態を見ると市内店舗を利用してくれていないように感じる。主催者との関係で困難な点も多いと思うが、知恵を絞ってほしい。

- ・ 総合的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

---

### 【基本施策③】 農業・漁業

(施策評価シートはP51 参照)

---

#### ○学識者等からの意見

- ・ 地産地消の意識を高めるための方策を検討してはどうか。
- ・ 漁業従事者の子どもが転職して後を継ぐといった事例を増やすための取組が必要ではないか。

---

#### ○部会長の講評

- ・ 農業従事者は兼業がほとんどで、漁協の加盟者も高齢者が多いというのが実態だが、行政は従事者に寄り添うことが重要であることから、農業・漁業に関する施策に引き続き取り組んでいく。
- ・ 総合的にみて、目標達成度合「C 概ね順調」という評価は妥当と考える。

---

### 【基本施策④】 労働環境

(施策評価シートはP53 参照)

---

#### ○学識者等からの意見

- ・ 就労相談件数が減少していることから、その要因分析が必要ではないか。
- ・ 就労相談に関する情報発信について、就職困難者の中にはインターネットの利用が困難な人もいると考えられることから、アナログ的な手法での情報発信も必要ではないか。
- ・ 成果指標の「就職につながった人数／就労相談人数」については、年度単位で算出するため、年度によって大きく差が出てくるのではないか。算出方法の見直しが必要ではないか。

---

#### ○部会長の講評

- ・ 就労相談について、PR不足によって相談者が減少してはいけない。積極的なPRを実施すべきである。
- ・ 成果指標の「就職につながった人数／就労相談人数」については、総合計画見直しの際に、見直す必要がある。

- ・テクスピア大阪にハローワークと労働基準監督署が入居したことから、これらの機関との連携が密になってきている。また、広報紙にはこれらの機関の記事を掲載している。一層緊密に連携してもらいたい。
- ・総体的にみて、目標達成度合「C 概ね順調」という評価は妥当と考える。

【基本施策①】行財政運営

(施策評価シートはP55 参照)

○学識者等からの意見

- ・ふるさと納税については、他市にふるさと納税した人の市民税控除額が、泉大津市へのふるさと納税額を上回っているという課題があるとのことなので、泉大津市へのふるさと納税額をさらに増加させる方策を検討すべきである。

○部会長の講評

- ・封筒等広告事業については、一定の歳入確保につながっているものの、その手続等に係る事務費を考えると、事業全体としてマイナスになって可能性もあることから、その検証をするべきである。そのうえで、広告枠の拡大も含めて、あり方を検討する必要がある。
- ・契約検査事務について、歳入確保も重要であるが、支出を適正に行うことも重要であることから、担当課が全庁的に指導することが重要である。
- ・総体的にみて、目標達成度合「C 概ね順調」という評価は妥当と考える。

【基本施策②】市政の情報発信

(施策評価シートはP57 参照)

○学識者等からの意見

- ・成果指標の「市ホームページへのアクセス数」については、目標値の設定が低いのではないかと。
- ・ホームページにアクセスできない高齢者への市政情報の提供について、工夫が必要ではないかと。
- ・自治会に加入しておらず、ホームページにもアクセスできない高齢者に市政情報をどのように伝えるかは以前からの課題であることから、その方策を検討する必要がある。

○部会長の講評

- ・「市長への提言」は、市長が直接に市民の意見を聞く重要な取組であり、その返信内容については、差出人に寄り添った回答となるよう市長も確認・精査している。ホームページを見ることができない高齢者が市に直接意見を言う機会でもある。

- ・ 広報モニター制度は高く評価してよい取組である。モニターからいただいた意見を反映し、広報紙を見直していることから、以前に比べて格段に良くなった。
- ・ 総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

---

### 【基本施策③】 公共施設

(施策評価シートはP59 参照)

---

#### ○学識者等からの意見

- ・ 公共施設については、更新の機会を捉えて市民との連携を進めるべきである。
- ・ 成果指標として「公共施設の利用しやすさや、サービスの内容に満足している市民の割合」を挙げているが、どのような部分に満足していて、どのような部分に不満を感じているのかについても把握する必要があるのではないかと考える。

---

#### ○部会長の講評

- ・ 現在検討中の公共施設等適正配置基本計画を策定し、その計画に沿って取組を進めてほしい。
- ・ 総体的にみて、目標達成度合「C 概ね順調」という評価は妥当と考える。

---

### 【基本施策④】 市民サービス

(施策評価シートはP61 参照)

---

#### ○学識者等からの意見

- ・ パスポート発給窓口については、パスポートの発給件数が当初の予想よりも多いようであり、市民の利便性向上に寄与していると考えられる。

---

#### ○部会長の講評

- ・ 当該施策は、情報管理の徹底とセキュリティ対策が重要であることから、引き続き、これらの徹底を図っていかねばならない。
- ・ 総体的にみて、目標達成度合「B 順調」という評価は妥当と考える。

## 5. 総評

### 学識者の総評

- 市民目線で様々な施策に取り組んでいると感じた。  
また、現に市民にサービスを提供している市職員が日々研鑽を積んでいることも分かった。  
引き続き同様に取り組んでいただきたい。
- 今後も様々な立場で泉大津市に関心を持っていきたいと感じた。  
施策評価という全体的な検証を行う際だけではなく、個々の施策を立案・実施する際にも当該分野に精通した専門家の意見や知見を取り入れていただきたい。  
エビデンスに基づく施策展開が重要である。

### 部会長の総評

第4次泉大津市総合計画に基づく市政運営をスタートしたことを踏まえ、今年度初めて施策評価を実施し、それぞれの基本施策についての進捗を確認することができたが、改善が必要な部分もあったと考える。

本市のすべての施策や事業は、第4次泉大津市総合計画に沿って展開している。施策評価は、その検証のために実施しているという点を十分に認識してほしい。

すべての施策や事業について、PDCAサイクルに沿って実施してほしい。施策評価とこれに基づいた今後の展開は、PDCAサイクルのC（チェック）とA（アクション）に当たることから、学識者の先生からいただいた貴重な意見やアイデアを踏まえ、改善を加えながら、それぞれの基本施策に掲げる「めざす姿」が実現できるよう、一歩ずつ前進してほしい。

学識者の先生方には、施策評価シートだけにとどまらず事務事業評価シートに至るまでつぶさに確認していただいたうえでご質問やご意見をいただいた。厚くお礼申し上げます。

**【行財政改革推進本部 構成員】**

◎ 伊藤 晴彦 市長	三井 寛子 健康福祉部長
○ 檜葉 智晴 副市長	重里 紀明 都市政策部長
富田 明德 教育長	櫻井 大樹 市議会事務局長
森田 雅明 参与 兼市立病院事務局長	朝尾 勝次 教育部長
迫間 一郎 総合政策部長	東 唯明 消防長
吉田 利通 総務部長	高寺 一徳 危機管理監

(◎ : 本部長、○ : 副本部長)

**【行財政改革推進本部施策評価部会 構成員】**

◎ 檜葉 智晴 副市長	櫻井 大樹 市議会事務局長
森田 雅明 参与 兼市立病院事務局長	朝尾 勝次 教育部長
迫間 一郎 総合政策部長	東 唯明 消防長
吉田 利通 総務部長	高寺 一徳 危機管理監
三井 寛子 健康福祉部長	杉原 充志 (学識者) 大阪成蹊大学マネジメント学部 マネジメント学科 教授
重里 紀明 都市政策部長	高橋 泰子 (学識者) 大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻 准教授

(◎ : 部会長)

### 【行財政改革推進本部の開催状況】

日 時	会議名	内 容
平成 28 年 11 月 21 日	行財政改革推進本部会議	「施策評価報告書（案）」を本部長に報告

### 【行財政改革推進本部施策評価部会の開催状況】

日 時	会議名	内 容
平成 28 年 10 月 12 日	第 1 回行財政改革推進本部 施策評価部会	「力を合わせて市民のまちづくり笑顔があふれる」及び「誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり」に係る基本施策について評価
10 月 19 日	第 2 回行財政改革推進本部 施策評価部会	「学びあうひとづくり彩りあるまちづくり」及び「コンパクトで居心地のよいまちづくり」に係る基本施策について評価
10 月 26 日	第 3 回行財政改革推進本部 施策評価部会	「安全で心やすらぐまちづくり」及び「誇れる・選ばれる・集えるまちづくり」、「健全な行財政と都市経営に基づく市民サービス」に係る基本施策について評価